

1. 調査目的等

中学校全学年の生徒の学力を把握・分析し、学校における教育指導の成果と課題の検証やその改善、及び進路指導に役立てる。

2. 学校ごとの指標

前年度偏差値を、1ポイント以上上げる。(49.0⇒50.0)

3. 指標にむけての取組

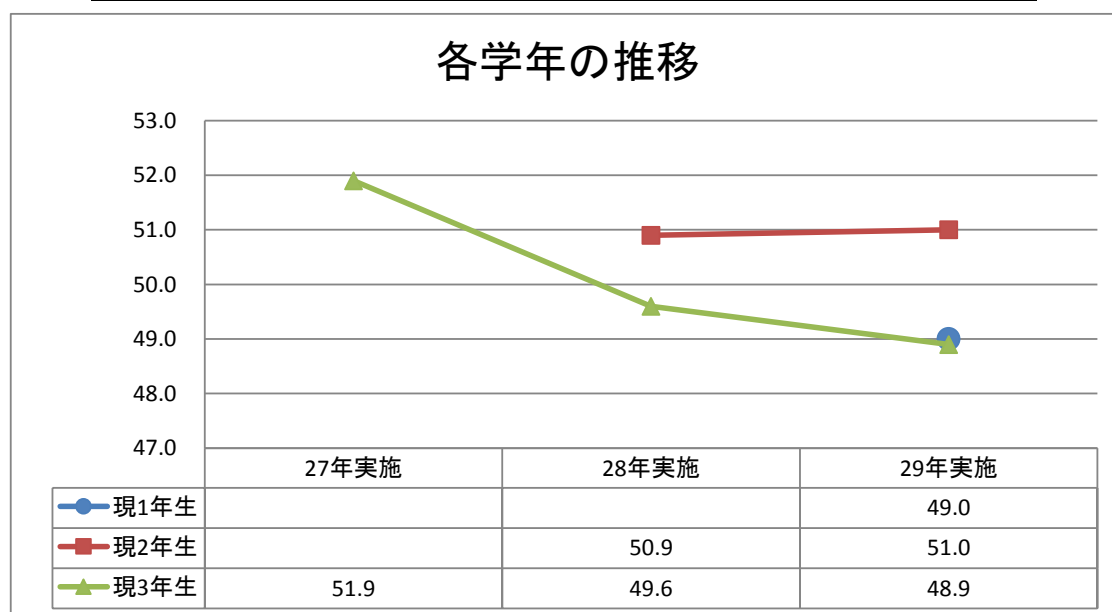
- 少人数指導や個別指導、習熟の程度に応じた指導等、学力実態の分析に基づいた個に応じた指導を行う。
- 定期考査前後のチャレンジタイム、フォローアップタイムを行い、基礎・基本の定着を図る。
- 自学ノートと課題プリント(曜日による教科1枚)を徹底し、家庭学習の定着を図る。
- 授業規律、学習の構えづくりを徹底する。
- 形成的評価を工夫し、フィードバックを確実にを行い、繰り返し学習や反復学習を実施する。
- 「基礎基本を含む活用力を育成する教材集」等を活用し、活用力や応用力を育む授業を実施する。

4. 調査結果

※学校平均5年間の推移 (標準偏差値50に対して)

年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
本校(A)	43.7	45.8	48.5	49.0	49.6
嘉麻市(B)	45.6	46.6	47.0	47.3	47.9
(A)－(B)	-1.9	-0.8	1.5	1.7	1.7
標準偏差値との差 (A)－(50)	-6.3	-4.2	-1.5	-1.0	-0.4

各学年の推移



5. 各学校における分析

- 昨年度偏差値より上がったものの、目標の50.0には届かなかった。
- 当たり前のことが当たり前にできるようになり、指導がきちんとどの子にも通るようになった。
- 学校全体が落ち着いており、どの授業も落ち着いた雰囲気、学びの環境が整っている。
- 生徒と教師の信頼関係が構築されており、わからないままにしない生徒が増えてきた。
- ほぼ県平均になっており、教員配置を生かした個に応じた指導の工夫と徹底が図られてきた成果と見られる。
- 昨年に比べ縮まってきているが、全学年を通して数学・理科に課題が見られるので、習熟度に応じた指導や体験的な学習が必要である。
- 3年については、二極化が進んでおり、広がりも大きくなっている。
- 2年については、確実に伸びてきている。
- 1年については、上位層が10人以上抜けたのに、ほぼ県平均である。

6. 各学校における今後の取組

- 習熟の程度に応じた指導や発展的な学習、補充的な学習等、学力実態の分析に基づいた個に応じた指導の充実を図る。
- 基礎・基本の定着を図るために、定期考査前後のチャレンジタイム、フォローアップタイムを行う。
- 家庭学習の定着を図るために、自学ノートと課題プリント(曜日による教科1枚)を徹底する。段階的に家庭学習の時間を増やしていき、120分間の学習時間をめざすが、本年度は、1年生70分、2年生80分、3年生90分の時間、家庭学習をする生徒を100%にする。
- 試験になると緊張したり、体調を壊したりして、十分に力を発揮できなかった生徒も多いので、普段から試験に慣れ、力が発揮できるような工夫をする。
- 「基礎基本を含む活用力を育成する教材集」や確かめシート等を活用し、活用力や応用力を育む授業を実施する。

7. 嘉麻市教育委員会としての今後の取組

基礎基本の徹底を図るための環境を整備する。そのために、基礎基本の徹底に向け、形成的評価を強化する。また、評価後の習熟度別指導を充実させるよう指導する。また、個に応じた指導の充実に向けて、学習の個別化を促進する教材の選定等の支援を行う。

嘉麻市学力向上プランに設定した「家庭学習」を推進する。そのために、個の学習課題に応じるよう、週末課題の個別化を推進する。